

全世代交流プロジェクトの取組

全世代交流プロジェクト(芦屋市の行政改革について)

■目指すべき未来のためにプロジェクトチームを設置

●今までの行政改革

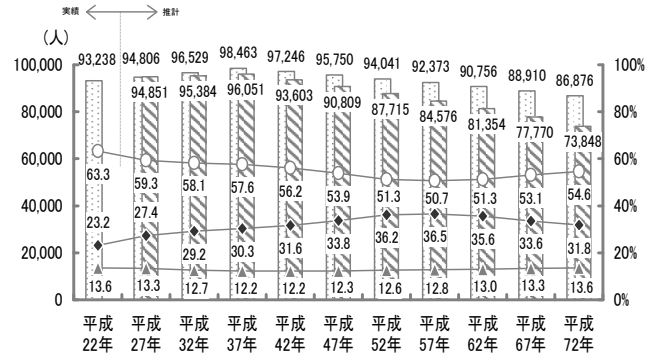
期 間	行革の特徴
平成15年～18年	コスト削減型
平成19年～23年	役所のシステム改革型
平成24年～28年	課題解決型

コスト削減, 職員削減が中心

●新しい行政改革

No.	目指すべき未来 〔施策の方向性〕	プロジェクト
I	地域社会が子どもたちを育む 〔子育てしやすいまちづくり〕	①子育て・仕事両立プロジェクト
		②教育環境充実プロジェクト
II	人々の笑顔が溢れる 〔全世代が住みよいまちづくり〕	③健康増進・全世代交流プロジェクト
		④女性が輝く場の創出プロジェクト
III	まちの魅力を高める 〔流入を促進するまちづくり〕	⑤未来へ向けた魅力あるまちづくりプロジェクト
		⑥地域活力向上につながる魅力発信プロジェクト
IV	職員が生き生きと働く 〔働いてみたい市役所※づくり〕	⑦人が育つ仕組みづくりプロジェクト
		⑧働く環境の魅力向上プロジェクト

現在の芦屋市
少子・高齢化と人口減少



少子・高齢化と人口減少に立ち向かうために

- 子育てしやすいまちづくりにより子育て世代の流入促進
- 魅力あるまちづくりにより人口流入促進

4つの視点で新たな行政改革

情報の集約・共有化と効果的な利活用の促進
戦略的な連携の推進
施策を推進する組織づくりと人材育成
資源の有効活用

全世代交流プロジェクトの軌跡①

■多様な主体の自発的福祉を高めるため、連携を模索するためインタビューに行くことに！

時期	検討内容
活動に向けた準備 平成29年5月26日(金) 午後3時～4時30分 於:同志社大学 出席者 14名	<ul style="list-style-type: none">・ 社会福祉法の改正の背景・趣旨について・ プロジェクト・チーム(以下「PT」)の進め方について・ 意見交換
第1回 平成29年6月7日(水) 午後1時30分～3時30分 出席者 30名	<ul style="list-style-type: none">・ 「芦屋市行政改革」について・ 各PTの設置について・ 講話(講師:日本福祉大学 平野教授) 「社会福祉法改正にかかるPT設置の意義と役割」・ 意見交換
第2回 平成29年7月25日(火) 午後1時30分～3時30分 出席者:18名	<ul style="list-style-type: none">・ 第1回目の振り返り・ 「多様な主体への働きかけ」について・ グループワーク<ul style="list-style-type: none">① インタビューを実施する対象主体の選定② インタビュー内容・ 発表によりPT全体で共有

平野先生から左記の内容についてご助言をいただきました。

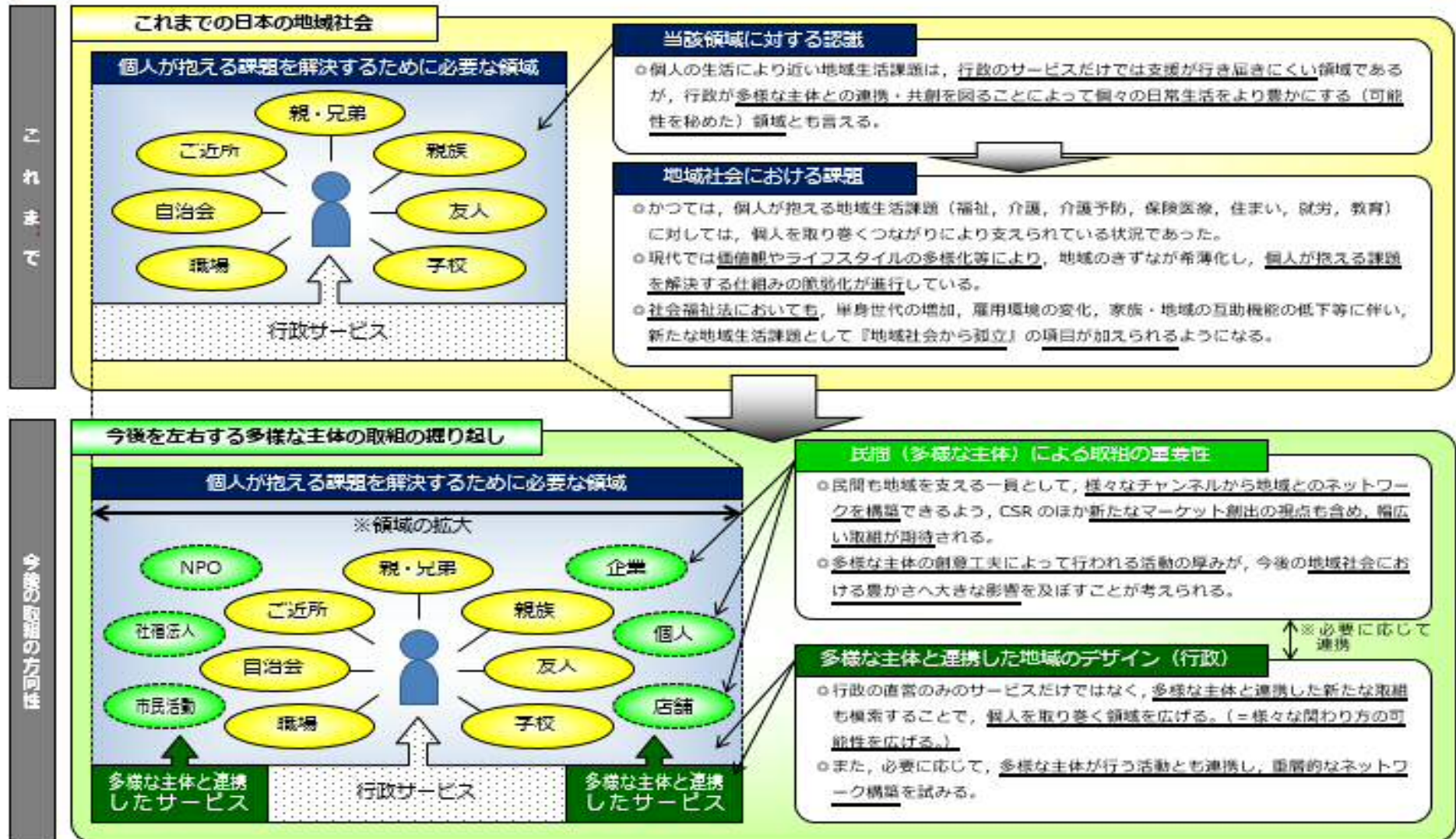
社会福祉法の改正に伴う自発的福祉の推進, 多様な主体との連携の必要性を学びました。

PTのメンバーで, まずどの主体(企業, 団体)に働きかけていくか話し合いました。

全世代交流プロジェクトの軌跡②

■社会福祉法の改正に伴う自発的福祉の推進，多様な主体との連携を意識しインタビューを実施

より豊かな社会を構築するための主体的な取組の掘り起しとネットワーク化 〔多様な主体と連携した地域のデザイン〕



全世代交流プロジェクトの軌跡②

■ 多様な主体(22団体)へインタビューを実施



PTメンバーによるインタビュー結果の
中間報告会も実施しました



(学) 甲南大学

阪急阪神ホールディングス(株)



(株) 三井住友銀行



(株) タニタヘルスリンク



芦屋いずみ会



フードバンク関西



生活協同組合
コープこうべ



(株) トライグループ



(株) フィッシングマックス



兵庫県住宅供給公社



(学) 芦屋大学



ミズノ(株) etc

全世代交流プロジェクトの軌跡③

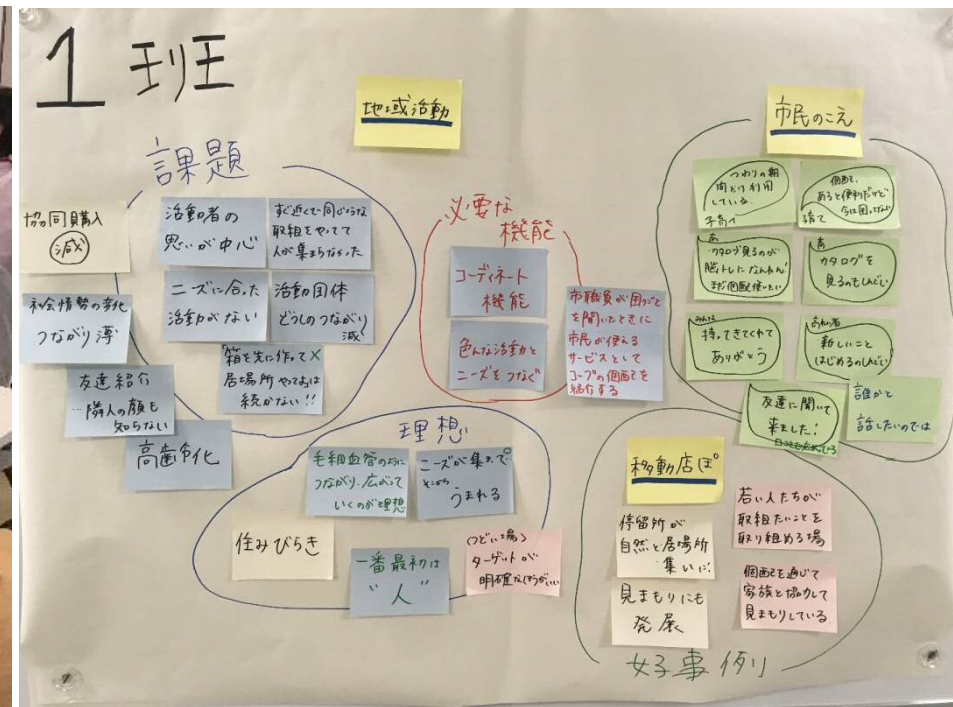
■PTの活動から発展したコープこうべの個配担当者等との意見交換会



＜意見交換の内容＞

- 業務中に聞く市民の困りごと
- 地域活動に関する情報
- 芦屋市に求められる資源
- 行政に期待すること
- その他

コープこうべにインタビューを行った際に、個配担当者が市民の方より困りごとを聞くが、どこにつないだらいいのかわからないといった話があり、芦屋市職員との意見交換会につながりました。



全世代交流プロジェクトの軌跡④

■多様な主体と芦屋市行政改革PTとの交流会を開催(H29.10.6)

【参加団体】 インタビューを行った団体から20団体、36名の方にご参加いただきました！

1 阪急阪神ホールディングス株式会社	11 ミズノ株式会社
2 株式会社三井住友銀行	12 ミズノスポーツサービス株式会社
3 兵庫県住宅供給公社	13 株式会社フィッシングマックス
4 芦屋いずみ会	14 特定非営利活動法人芦屋市体育協会
5 株式会社タニタヘルスリンク	15 尼崎ENGAWA化計画
6 生活協同組合コープこうべ	16 芦屋市民生児童委員協議会
7 認定特定非営利活動法人フードバンク関西	17 芦屋市コミュニティ・スクール
8 学校法人芦屋学園 芦屋大学	18 社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会
9 学校法人甲南学園 甲南大学	19 社会福祉法人きらくえん あしや喜楽苑
10 株式会社トライグループ	20 社会福祉法人聖徳園 あしや聖徳園

【オブザーバー】 ※地域に関する調整役機能を持つ生活支援コーディネーター(団体19~23)も参加

21 一般財団法人芦屋ハートフル福祉公社
22 株式会社アクティブライフ
23 社会福祉法人かんでん福祉事業団
24 学校法人日本福祉大学 日本福祉大学

団体から合計 24団体・43名
芦屋市含め 総勢 72名が参加！！



芦屋市長も参加

＜芦屋市長より＞

現在、人口減少・少子高齢化に起因する諸課題を中心に据え、本市がより魅力あるまちとなるよう取組を展開しているところでございます。

本日の交流会が、「目指すべき未来」に向けた本市とみなさまの新たな「創発の場」となることを期待しています！

全世代交流プロジェクトの軌跡④

■多様な主体の取組紹介(芦屋市がインタビュー結果の資料を作成し、その資料をもとに参加団体が順番に地域づくりにつながる取組等をプレゼン)



芦屋市プロジェクト・チーム によるインタビューまとめ

～健康増進施策の推進と高齢者の社会参加の促進PT・全世代交流に向けたPTの活動より～
(平成29年7月27日～10月2日)



芦屋市プロジェクト・チームの
インタビュー報告会の様子

目次

- 1 阪急阪神ホールディングス株式会社・・・P1
- 2 株式会社三井住友銀行・・・P1
- 3 兵庫県住宅供給公社・・・P2
- 4 芦屋いずみ会・・・P3
- 5 株式会社タニタヘルスリンク・・・P3
- 6 生活協同組合コープこうべ・・・P4
- 7 認定特定非営利活動法人フードバンク関西・・・P4
- 8 学校法人芦屋学園 芦屋大学・・・P5
- 9 学校法人甲南学園 甲南大学・・・P5
- 10 株式会社トライグループ・・・P6
- 11 ミズノ株式会社・・・P6
- 12 株式会社フィッシングマックス・・・P7
- 13 特定非営利活動法人芦屋市体育協会・・・P7
- 14 尼崎ENGAWA化計画・・・P8
- 15 芦屋市民生児委員協議会・・・P8
- 16 朝日ケ丘コミュニティ・スクール・・・P9
- 17 社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会・・・P9
- 18 社会福祉法人きらくえん あしや喜楽苑・・・P10
- 19 社会福祉法人聖徳園 あしや聖徳園・・・P10

芦屋市



阪急阪神ホールディングス株式会社

▶地域づくりにつながる取組や活動など

- 健康ポイント事業
スマホアプリ、WEBサイト、フリーペーパー等の活用
リサコンと連携 さらにツール改良。
- 健康“生き生き”羅針盤リサーチコンプレックス連携事業
糖尿病重症化予防事業
- 上記二つも含めた、健康寿命延伸治療官学連携
- ソーシャル・インパクト・ボンド活用の推進
神戸市で始まった糖尿病重症化予防事業
- 地域包括ケア支援ICT
総合データベースの構築 母子ヘルスケアへの展開



健康“生き生き”羅針盤
LIFE-ROUNDPLOW

芦屋市

株式会社三井住友銀行

▶地域づくりにつながる取組

- こども銀行たんけん隊
・主に夏休み期間に小学生未満対象に、銀行を知っていただくため、「ATMの裏側の見学」「お札を数える」「現金一億円との記念撮影」等を行う。
- 制度型融資
・環境配慮型融資
(例) 高速道路会社：森林伐採の減少、アイドリングストップ、逆走防止等の環境配慮を行う企業への評価型融資
・なでしこ融資
(女性活躍推進企業に対して一定の評価に基づき金利優遇)



▶印象に残った言葉

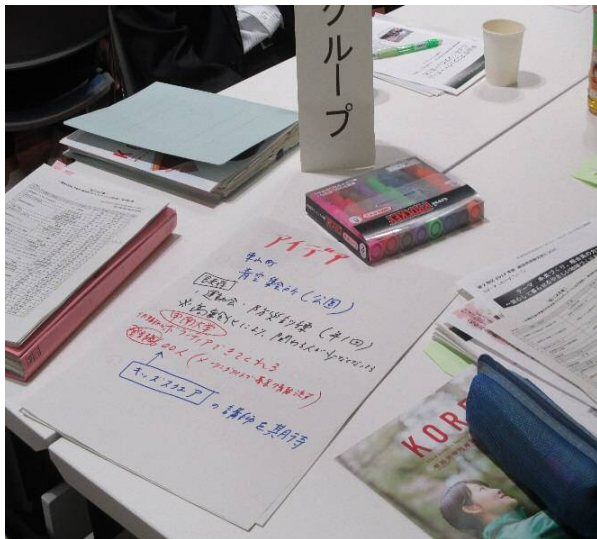
- 多くの企業とのつながりがある銀行だからこそ、企業と企業、企業と市役所をつなぐ橋渡しができる。
- 三井住友銀行を知ってもらい、身近に感じてもらえることを銀行の喜びと考え、積極的に地域貢献を行ってきたい。

芦屋市



全世代交流プロジェクトの軌跡④

- 「未来に向けた取組」について意見交換・グループワークを実施
- 最後に、名刺交換，フリートークで次につながる交流を行う



全世代交流プロジェクトの軌跡④

■参加者アンケート 前向きな意見, 期待する意見を数多くいただきました!

	項目	回答内容	回答人数
1	交流会について	とても参考になった	19名
		ある程度参考になった	16名
		参考にならなかった 他	2名
2	行政のプロジェクト・チームの取組について	良く理解・共感できた	16名
		ある程度理解・共感できた	18名
		理解が難しかった 他	3名
3	今後, 同様の交流会等があれば参加したいですか。	ぜひ参加したい	17名
		予定が合えば参加したい	19名
		どちらともいえない 他	1名

■アンケート自由記述より抜粋

※参加団体アンケート 37名分について

- ・今回の取組は大きな一歩だと思います。今後の芦屋市の変化が楽しみです。
- ・自分の知識・情報が少ないことがわかったので, 今後は様々な団体からも情報を得ていきたい。
- ・スピード感を持って新たな継続性のある取組の実施を期待したい。
- ・今回はお互いの活動を知る機会だった。今後は具体的な取組についてアイデア出しや行動に移して行けるようにしたい。

⇒参加者からは事務局に協力してもよいという声もあり, 参加者連絡簿を作成し, 全参加者へ送付

全世代交流プロジェクトの軌跡④

■職員アンケート 職員の意識の変化, PTの今後の取組の方向性が見えてきました!

プロジェクト・チームとして

- 市のパートナーに成り得る各主体に、**市が変わろうとしている姿勢を伝える**ことができよかった。
- 前所属部署の関係機関と現所属部署の関係機関というように**既存のネットワークも活用し**、協働の取組につなげたい。
- 一方で、企業はネットワーク創出の場や機会の提供者には成り得るが、活動そのものから直接的な利益につながらない場合、**主体的な取組を促すことは難しい**と感じた。
- 団体によって、できることできないことが異なるため、芦屋市が**取組テーマを明確にし**、多様な主体と連携する方法がよいと思う。



職員個人として

- 仕事で関わりが少ない分野の話を知ることができ、**視野が広がった**。
- 多くの企業・団体が地域で様々な活動を行い、地域に貢献していることを知らなかったのがよかった。
- 民間の「**とりあえずチャレンジして**、ダメだったときはそのときに考えればよい」という姿勢は役所ではなかなか持ちにくいですが、必要ではないかと感じた。
- 民間の質の高いプレゼンを見て、行政職員も**説明能力を高める**必要があると思った。
- 企業や団体が行政や他団体との連携に対して、積極的であると同時に、地域とつながるための情報を必要としていることがわかり、**情報発信が求められている**と実感した。



行政改革の基本的な考え方(情報の集約・共有化と効果的な利活用の促進, 戦略的な連携の推進, 施策を推進する組織づくりと人材育成, 資源の有効活用)をもとに, PT(組織)として取組を進めているが, そのプロセスを経験することで, 職員個人が行政改革を理解し, 体現しようと努めている。

全世代交流プロジェクトの成果

(参加者・職員アンケートによる)

1 多様な主体との関係性の構築

- 今まで関わることのない方々と顔合わせ，交流ができてよかった。
- 主体同士が連携できる可能性を感じた。

2 地域づくりにつながる取組の推進

- 各団体が地域へ向けた様々な取組を行い，地域とのつながりを持つようとしていることがわかったので参考にしたい。

3 芦屋市が目指すべき未来の共有(芦屋市行政改革)

- 異業種の民間企業が集まり，芦屋市を良くしようと知恵を出し合うことがいい刺激になった。他団体と連携することで新たな何かが出来る可能性を感じた。
- 行政，市民が届かない部分に対して，企業が埋めていくようになれば良いと思う。

4 芦屋市職員の人材育成

- 行政は「受け身」というのが率直なイメージだったが，完全に変わった。現在・未来に直面する問題について，改革プロジェクトを結成し，様々な課題解決をしようとしていることが理解できた。

新たな連携事例について①

PTでの出会いにより、新たな連携事例が生まれました。

《芦屋市プロジェクト・チームの取組からの連携事例》

- **あしやキッズスクエア**
株式会社フィッシングマックス × 市青少年育成課
- **J:COMチャンネル デイリーニュース放送**
株式会社ジュピターテレコム × 社会福祉法人かんでん福祉事業団等
株式会社ジュピターテレコム × 社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会
株式会社ジュピターテレコム × 市地域福祉課, 市障害福祉課
- **あしやたがやす(イベント)開催**
生活協同組合コープこうべ × 尼崎ENGAWA化計画 × 市職員
- **食糧支援**
認定特定非営利活動法人フードバンク関西 × 生活協働組合コープこうべ
× 社会福祉法人芦屋市社会福祉協議会

地域の行事に、こえる場！参加企業が差し入れするなど、地域との連携(つながり)も生まれてきました。

新たな連携事例について②

- こえる場！（PTと多様な主体の集まり）の周知
- 新たな気付き、創発、連携のためのイベントの開催

行政、各団体から「具体的な取組についてのアイデア出しや行動が必要ではないか」との意見も多く、行政と各団体又は各団体どうしが連携できる手法の一つであるイベントについて意見交換を実施



こえる場！参加団体 21団体
イベント参加団体計 27団体

市と市民、多様な主体が実践している地域づくりに
つながる取組を周知・啓発できるイベントを開催（3月21日）

イベント開催にあたり新たに生まれた連携

- 災害時の食の啓発
生活協同組合コープこうべ × 芦屋いずみ会
- あしやコミュニティcafe
生活協同組合コープこうべ × 株式会社ローソン × 地域支え合い推進員
- 自然工作（昔遊び）
学校法人 芦屋学園・芦屋大学 × ちきゅうっ子応援隊

市民（生活困窮者）を包括的に支える連携体制の推進